

**製品名: Bcl-2 (リン酸化 Ser70) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04303**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:20-1:50
分子量	26kDa

**抗原情報**

遺伝子名	BCL2
別名	BCL2; Apoptosis regulator Bcl-2
遺伝子 ID	596.0
SwissProt ID	P10415
免疫原	抗血清は、ヒト BCL-2 の Ser70 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 41-90

**背景**

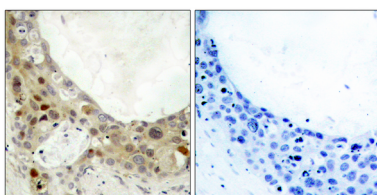
BCL2、アポトーシス制御因子 (BCL2) ホモサピエンス この遺伝子は、リンパ球などの一部の細胞のアポトーシスを阻害するミトコ

ミトコンドリア外膜タンパク質をコードしています。BCL2の免疫グロブリン重鎖遺伝子座への転座など、BCL2の恒常的発現は、濾胞性リンパ腫の原因と考えられています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq提供、2016年2月]、疾患：BCL2に関連する染色体異常は、濾胞性リンパ腫（FL）[MIM:151430]（別名II型慢性リンパ性白血病）の原因となる可能性があります。免疫グロブリン遺伝子領域との転座t(14;18)(q32;q21)。染色体転座を伴う非ホジキンリンパ腫で見られるBCL2変異は、ヌクレオチドの遷移を引き起こすIg体細胞超変異機構に起因する可能性があります。ドメイン：BH4モチーフは、抗アポトーシス活性およびRAF-1との相互作用に必要です。機能：因子依存性リンパ造血細胞や神経細胞など、さまざまな細胞系でアポトーシスを抑制します。ミトコンドリア膜透過性を制御することで細胞死を調節します。カスパーゼとのフィードバックループシステムで機能すると思われます。ミトコンドリアからのシトクロムcの放出を防ぐことによって、および/またはアポトーシス活性化因子（APAF-1）に結合することによって、カスパーゼの活性を阻害します。オンライン情報：Bcl-2 エントリ、PTM：Ser-70 のリン酸化/脱リン酸化が抗アポトーシス活性を調節します。PKCによる成長因子刺激によるSer-70のリン酸化は、抗アポトーシス活性に必要であり、細胞周期のG2/M期に起こる。成長因子が存在しない場合、BCL2はERKやストレス活性化キナーゼなどの他のタンパク質キナーゼによってリン酸化されると考えられる。タンパク質ホスファターゼ2A（PP2A）によって脱リン酸化される。PTM：アポトーシス中にカスパーゼによってタンパク質分解的に切断される。BH4モチーフを欠く切断タンパク質は、プロアポトーシス活性を有し、シトクロムcを細胞質に放出し、さらなるカスパーゼ活性を促進する。類似性：Bcl-2ファミリーに属する。サブユニット：ホモ二量体、およびBAX、BAD、BAK、Bcl-X（L）とヘテロ二量体を形成する。BAXとのヘテロ二量体形成にはBH1およびBH2モチーフの完全な状態が必要であり、抗アポトーシス活性に必須である（相同性による）。また、APAF1、RAF-1、TP53BP2、BBC3、BCL2L1、MRPL41、BNIPLとも相互作用する。FKBP8への結合はBCL2をミトコンドリアへ誘導し、BCL2の標的への結合を阻害すると考えられる。組織特異性：様々な組織で発現する。

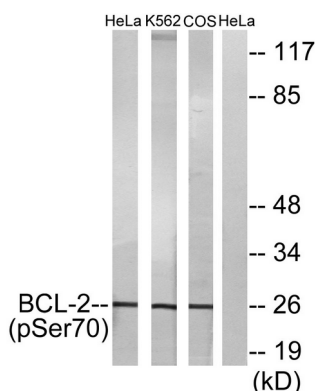
## 研究分野

アポトーシス阻害、ミトコンドリアアポトーシス、アポトーシスの概要、接着斑、神経栄養因子、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、がんの経路、大腸がん、前立腺がん、小細胞肺癌

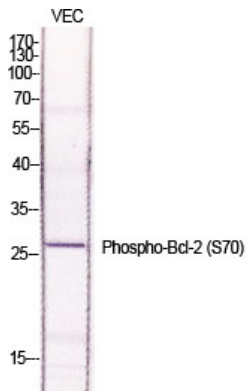
## 画像データ



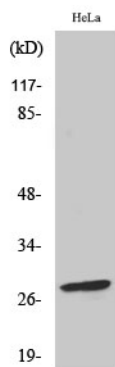
BCL-2（リン酸化Ser70）抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



LPS（40nM、30分）処理したHeLa細胞、カリキュリンA（50ng/ml、30分）処理したK562細胞、およびH<sub>2</sub>O<sub>2</sub>（1ng/ml、15分）処理したCOS-7細胞のライセートを、BCL-2（リン酸化Ser70）抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 Bcl-2 (S70) ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して各種細胞をウェスタンブロット解析した。



リン酸化 Bcl-2 (S70) ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット解析